

マンモグラフィ贈呈についての記事が新聞各紙に掲載されました。

2006. 10. 7 朝日新聞

2006. 10. 8 京都新聞

**女子テニス連盟  
検査機器を寄贈**  
乳がん早期発見へ

乳がん検診の大切さを呼びかける「ピンクリボンレディーステニス大会」(朝日新聞社後援)

を主催する日本女子テニス連盟は6日、参加者から集めた資金で買った乳がんの検診機器を北区で11月に開催する沢井診療所に寄贈した。

同連盟が大会参加者から集めた資金は1300万円に達し、機器を製造する島津製作所の協力を得て乳房をX線撮影する「マンモグラフィ」を2台購入。寄贈先の一つに、沢井診療所を選んだ。中京区の島津製作所本社であった贈呈式では、

大会の小田晶子委員長らが、沢井清司院長に目録を渡した。沢井院長は「京都で現在12%の受診率を5年以内に50%にしたい。そのためにも精密検査が受けられる施設が必要だ」と話した。

**セブ** 乳がんの早期発見・治療を呼びかける「ピンクリボン京都キャンペーン」が行われているが、運動を推進している日本女子テニス連盟(宮城黎子会長)は6日、沢井診療所(北区、沢井清司所長)に検診機器マンモグラフィ1基を贈った。

同連盟は4年前からキャンペーンのレディーステニス大会を開き、参加費の一部や募金を積

**乳がん 早期発見を**  
女子テニス連盟が検診機器贈る

み立てて、機器を寄贈することにした。今回は京都のほか島根県の検診センターにも1基を贈る。

中京区の島津製作所本社で行われた贈呈式には、同連盟の伊波昭子副会長、水野加余子京都支部長、特別協力の島津製作所服部重彦社長らが出席、伊波さん、水野さんらは「乳がんを早期に発見できたらありがたい。寄贈は多くの皆さんの協力があったからこそで、今後も活動を続けます」と話していた。



島根県保健公社に  
乳がん検診装置贈る  
日本女子テニス連盟  
乳がんの早期発見啓発  
キャンペーンに取り組み



日本女子テニス連盟の飯田藍副会長(左)から目録を受け取る中島雪夫理事長(右)＝松江市朝日町、松江東急イン

日本女子テニス連盟が二十七日、早期の小さながんを見つげるのに役立つとされる乳房エックス線装置・マンモグラフィを島根県環境保健公社に寄贈した。

同連盟は三年前からキャンペーンの一環で「ピンクリボンバッジ」の売り上げを基金に積み立て、今年初めて二台のマンモグラフィを購入。寄贈先の公募に手を挙げた全国四団体のうち、島根県内では健診機器の整備が遅れている同公社が選ばれた。

同連盟の飯田藍副会長が松江市を訪れ、中島雪夫同公社理事長に目録を贈呈。中島理事長は「受診者の利便性向上に役立つ」と喜んだ。

同公社にはマンモグラフィ搭載検診車一台しかなく、受診を希望しても応じられないケースがあった。寄贈された一台が配備される十月中旬以降は、同公社の総合健診センター(松江市)で週一回のマンモグラフィ健診が可能になる。

島根アサヒコム

<http://mytown.asahi.com/shimane/>

最新情報こちらで

乳がん検診機器  
県の公社に贈る

乳がんの早期発見の重要性を呼びかけ、「ピンクリボンデー」を主催している日本女子テニス連盟が27日、大会で集まった募金で購入した検診機器「マンモグラフィ」を、県環境保健公社総合健診センター(松江市)に寄贈した。

同大会(朝日新聞社後



日本女子テニス連盟の高木陽子理事長(左)から目録を受け取る、県環境保健公社の中島雪夫理事長＝松江市朝日町で

援)は03年に始まり、都道府県大会と全国大会に4年間で延べ3万2千人が参加。「ピンクリボンバッジ」を販売するなどして積み立てた基金が、今年約1300万円に達し、同連盟が機器製造会社の助成を受け、2台を

購入した。贈呈先は公募で選ばれ、1台は京都府内の医療機関、もう1台が県環境保健公社に決まった。

同公社総合健診センターでのマンモグラフィ検診は専用検診車を呼べる月1、2回に限られて

いたが、機器が設置される10月中旬以降、週一回に増やす。

贈呈式では同連盟の高木陽子理事長から同公社の中島雪夫理事長に目録が手渡された。総合健診センターの有馬範行所長は「検診の受診率を上げていくために活用したい」と話していた。